

環境21世紀の会の活動

環境21世紀といわれ、避けて通れない課題となっております。私たちは経済活動による環境の変化の中で、より良い共生を求め、活動しているボランティア団体です。



環境と共生

第16号

平成17年9月25日発行 発行：環境21世紀の会 編集：総務会 有村 親雄
住所 〒277-0042 柏市逆井4-9-5 TEL 04-7174-2135

ホームページ <http://homepage3.nifty.com/kankiyu21seki/>

環境21世紀の会々員募集

広範で複雑多岐にわたる環境問題ですが、私たちは手の届く問題を話し合い実行に移しております。一緒に活動してみませんか。申込みは左記事務局まで、お問い合わせください。

ごみ改革をした日野市～市民との協働のまちづくり～

日野市は都心から30kmの3多摩地区に位置し、首都圏のベッドタウンとして、発展している都市で、平成16年10月の人口は17万人強、柏市のほぼ半分弱です。

日野市のごみは、清掃工場で焼却、破碎した後、東京都日の出町にある二ツ塚最終処分場に埋め立てられている。この処分場は広域処分組合が所有しており、平成25年には満杯になってしまうので、市町村毎に配分量が厳しく決められている。平成10年度には最終処分場への配分搬入量を超過して、搬入停止になり億単位の追徴金の発生で危惧に陥った。

平成11年までは一人当たり家庭系可燃ごみ量が三多摩地区の30市町村の中でワースト4、又、不燃ごみ、再資源化率はワースト1。平成12年10月にごみ改革を実行し、平成13年度には家庭系可燃ごみ量はベスト1になった。その背景にあるものは、環境に意識の高い市民の参画でした。

平成11年度以降の、日野市の1人1日当りのごみ発生量の経過を図に示す。ごみ発生量は、可燃ごみ、不燃ごみ、粗大ゴミの合計。プラスチックは一部資源化されているが、日野市と柏市の比較のためにプラスチックはゴミに含まれている。

PETボトルなど資源品は除いている。図から分かるように、日野市の平成13年度は、ゴミ改革前の11年度に比較して35%減で大きな削減効果がでている。

平成15年度では柏市と比較しても約20%も少ない。

環境にやさしいまち「日野」を目指して、環境基本条例に基づく直接請求がなされ、平成11年に環境基本計画を109名の市民と協働で策定した。平成13年6月に、市民参加による「ごみ減量推進市民会議」がスタート。約30名の市民が参加して、分

科会を含めて延べ50回以上の会議を重ね、平成14年3月に「日野市ごみゼロプラン」が策定された。このごみゼロプランの体系は、市民行動計画、事業者行動計画、循環システム計画の3つから成り立っている。

具体的には、生ごみを減らすために「食べ残ししない」をキャンペーンし、「家庭、集合住宅、学校、市立病院での生ごみコンポスト化」の仕組みづく

バザーのご案内

開催日時：10月30日（日）10：00～14：00
場 所：柏市逆井 柏楽園ふるさと会館
バザー品受付 随時受け付けます。
又は、10月29日（土）13：00～16：00
柏楽園ふるさと会館で受け付けます。
主 催：環境21世紀の会
<連絡先> 工藤 TEL/FAX：7172-8753

くりをしている。又、環境学習の一環として、学校給食の残サ利用生ごみメタン発酵実証実験を行なってきた。レジ袋やトレイの削減として、平成15年7月から毎月5日に「マイバックデー」を開始。マイバック運動の出口調査で2年間のデータでは、レジ袋辞退率が20～30%、マイバック持参率が35～45%を推移している。

ごみ有料化による減量化に成功

昭和44年から続いたダストボックス収集方式から原則戸別収集方式に変更。ごみの減量化のため経済的手法を採用した。平成13年度に、有料指定袋を採用し、1世帯（4人）当たり、平均的には中袋（20L）を40円とした。袋の容量で比例的な価格体系になっており、具体的には、家庭用ミニ袋（5L）10円/枚、小袋（10L）20円/枚、大袋（40L）80円/枚。

事業系は家庭用より3倍強の価格設定で、事業系小袋（15L）100円/枚、特大袋（45L）300円/枚。改革導入は啓発活動・合意形成だった。平成11年5月から約1年半かけて、延べ600回以上3万人の市民（当時の人口の2割弱）に説明。環境基本計画の策定に携わった市民が説明会で市が後押しをしてくれた。市長を先頭にした説明会・早朝駅頭での訴えを行なった。

ごみの有料化を補完するために、生活保護受給世帯、児童扶養手当受給世帯、高齢福祉年金受給世帯、母子年金受給世帯などについては減免措置をとった。

又、紙おむつ専用の20L、30Lの収集袋を無料で配布。剪定枝は市内20箇所の公園などで無料収集し、チップ化して公園の路地等に利用、希望者に市民配布をしている。2005年7月5日に日本包装学会主催による容器包装リサイクル法のシンポジウムが開催され、日野市クリーンセンターの小林寿美子所長の講演資料から抜粋したものです。

柏市でも平成17年4月から可燃ごみ、容器・プラスチックの指定ごみ袋に変更された。

某大型店でのこれらの指定ごみ袋は、10枚単位で、小袋（20L）140円、中袋（30L）178円、大袋（40L）188円で販売されている。（参考まで）

図1 1人1日当りのごみ発生量（プラスチック含む、資源品除く）

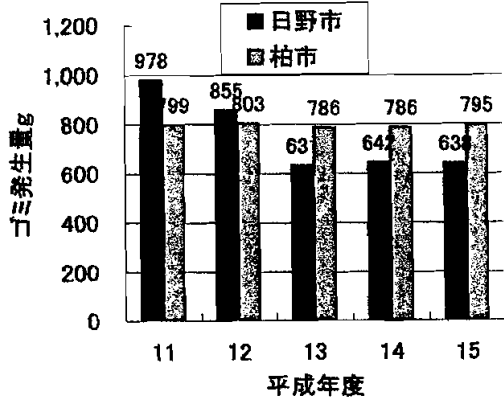


写真 日野市のクリーンセンターとメタン発酵設備

エネルギーの効率化で 地球温暖化が救える

世界の人口は、20世紀の100年間に17億人から60億人へ、3.5倍増加した。穀物生産は7.5倍に増え工業製品の代表である鉄鋼の生産も20倍になり、同時にエネルギー消費も20倍になった。図2から分るように20世紀後半には、石油、石炭、天然ガスなどの化石燃料に8割を依存している。その結果、CO2濃度が高まり地球温暖化を招きつつある。発展途上国の経済発展を阻止する事はできない。2050年までに途上国は欧米並みに発展し、同等のエネルギーを消費するとなると、現在の3倍になる。この増加分のエネルギーをすべて化石燃料でまかなうと、2050年時点でCO2濃度は600ppmになり、現在の2倍になる。その結果、大量の廃棄物が出て地球温暖化が顕著になり、石油の枯渇感が明白になる。

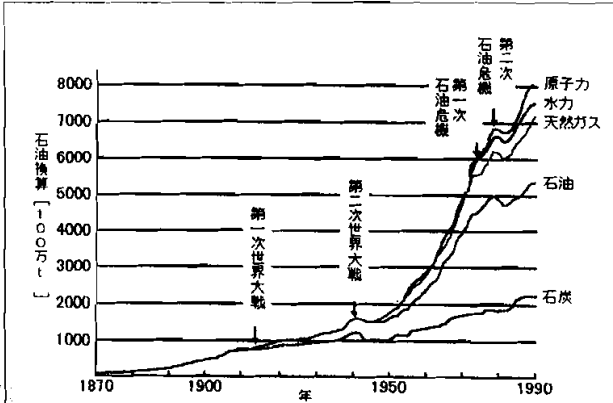


図2 世界のエネルギー消費の推移

この3つの問題を同時に解決するのが「ビジョン2050」、「ビジョン日本2030」。その骨子は、物質循環システムの構築、エネルギー効率3倍、自然エネルギー利用2倍の3点からなる。省エネルギーというと、エアコンの暖房温度を下げるとか、自動車に乗らずに自転車を利用するとかといったライフスタイル変更の議論がなされるが、それだけでは温暖化を解消するほどの効果は期待できない。これに対し、エネルギー効率の向上による効果は非常に大きい。

1998年に日本のエアコンメーカーが開発したエアコンのエネルギー効率は世界最高を達成した。4年後の2002年の時点でエネルギー効率は、既に1.5倍を記録している。2030年には更に効率は上がるであろう。住宅の断熱性能を向上させれば、更に省エネルギー効果が上がる。

日本の総エネルギー消費量の16%を占める自動車を軽量化し、タイヤの摩擦係数を改善し、ハイブリッドのように少ないエネルギーで走る駆動系に変更することで、消費エネルギーを半分に減らすことができる。加速の時は仕事が必要だが、水平移動のときは必要なく、止まる時に発電して逆にエネルギーを得ることができる。後は摩擦の際、エネルギーをできるだけ少なくすれば良い。同じ時速60kmで走るにしても、馬は0.5トンで1馬力、自動車は1トンで100馬力。自動車は少なくとも10分の1のエネルギー量にすることができる。

バイオマスなどの自然エネルギーの 利用で炭酸ガスを排出させず

現在の化石資源消費の25%に相当するエネルギーを自然エネルギーに代替する。秋に収穫の終わった田で稲わらを焼却している風景に出会うことがあるが、これは「油田の火災」に他ならない。こうした未利用バイオマス（再生可能な生物由来の有機資源で化石資源を除いたもので、太陽エネルギーを使って生物が合成したもので枯渇しない資源）を使用してメタン発酵でメタンガスや水素を取り出す。又、食品の廃棄物等その他農林業残サ、廃木材、廃棄物などバイオマスの資源となる。

都市建築物の屋根は、太陽電池の設置規模を拡大していく。京都議定書発効2月16日の前日に「京都議定書発効で変わる環境経営へのインパクト」というシンポジウムが開催され、東京大学副学長 小宮山 宏氏（4月より学長）から基調講演があった。その概要は日経エコロジー2005年4月号に紹介記事が掲載されており、この内容は、講演と雑誌記事の一部を抜粋し紹介したものです。

環境省提唱の1人ひとりの 地球温暖化対策

2002年度の炭酸ガスの排出は、1990年を基準に対して、産業部門は約2%減少。しかし、運輸・業務・その他部門で27%、家庭部門で29%増加。環境省では、家庭でできる温暖化対策として、次の10項目を提案している。

- ①冷房の設定を1℃高く、暖房の設定を1℃低く設定する。
- ②週2日往復8kmの車の運転をやめる。
- ③1日5分間のアイドリングストップを行なう。
- ④待機電力を90%削減する。
- ⑤シャワーを1日1分家族全員が減らす。
- ⑥風呂の残り湯を洗濯にまわす。
- ⑦ジャーの保温を止める。
- ⑧家族が同じ部屋で団らんし、暖房と照明の利用を2割減らす。
- ⑨買い物袋を持ち歩き、省包装の野菜を選ぶ。
- ⑩テレビ番組を選び、1日1時間テレビ利用を減らす。

行楽シーズンである。旅行というのは自然に触れ、心の満足という点では、消費するものも間接的で環境にやさしい娯楽である。しかし実際にツアーなどに参加してみると、それなりに考えさせられるものがある。その土地、その宿で特色のあるものを夕食に出されてくるのは有りがたいのだが、その料理の数や量の多さに閉口してしまう。

近年、旅行参加者の多くは、女性であり、年輩者である。案の定、幾つかの料理は手がつけられず、或いは、数口食して残されている。宿側ではサービスのつもりで、「これでもか」と出し続けていたのだが、食の文化が落ちたという心理が働いて、その料理の数や量が多すぎると感じる。これほど悪くはない。環境に悪いこと、身体にも悪いことなのだ。

ホテルによっては二日以上滞在する場合、バスタオル等の交換を自由にして、洗濯量を減らしているが、一般のツアー受け入れのホテルまでは至っていない。また使い捨て歯ブラシとペーパースト、タオルも随分過剰なサービスであろう。

宿側のものを使用する場合、環境基金とかの名目で10円でも50円でも募金形式で徴収すればよい。どうせ自宅から持ってきて、たいして荷物にはなり得ないのだから。この時代、エコ意識を示すことにはならないはずだ。アンタ、そんな格安パックを選ぶからだ、なんて言わないで下さい。（藤栗毛）

つわ
ぶた
やし
の
き

各項目の詳細は省略するが、10項目の合計で、年間CO2削減効果は766kgで年間排出量に対する削減割合13%。日本全体での効果として、温室効果ガス排出量（1990年）を2.8%削減できるとしている。又、経済的な効果として、一世帯あたり年間41,000円の節約になると試算されている。

編集後記

- ・東京都日の出町の最終処分場に頼ってきた日野市は、ごみ危機に陥った。市民との協働のまちづくりで、ごみ改革をした日野市を取り上げた。
- ・東大副学長の小宮山 宏氏（4月より学長）は、地球環境問題に関する著書も多い。炭酸ガスの削減には、エネルギーの利用効率アップと自然エネルギーの代替で地球温暖化が防止できると数値を並べて断言した。「環境省の地球温暖化対策」と比較して欲しい。（T,K）